

層雲青年句会報 第一号

発行

平田栄一

平成2年3月1日

去る2/25(日)、東京日暮里にて第一回の青年句会が開催されました。出席者は、比田井白雲子・青木久魚・田名網聖治・平田栄一そして、段証琴子さんも応援で参加してくださいました。出席予定の人が何人か、急遽都合で参加できなくなる等、第一回目としては、ちよつと淋しい感じもしますが、以下に報告するように、活発な意見交換が行われました。また、句会後も近くの喫茶店にて、層雲叢書の話や大会のこと等なごやかなおしゃべりが続き、有意義なひとときでした。

句評

(3点)

背広てれりと吊し寝そべって聞く妻の繰り言

栄一

「「てれり」という古語に近い擬態語が「寝そべって聞く繰り言」とよくマッチしていて、倦怠感が出ている。「(句会での意見 以下同じ)」「未婚の者にもよくわかる。」

・・・余談「入門者にとっては、麗日集より香風林の方がわかりやすい。」「しかし香風林の句は皆同じように見える。」「麗日集は層雲の顔かもしれないが、わからない句が多い。」「実験的なものととらえてはどうか。」「・・・」

(2点)

雪の原野の淋しい背中を見た

白雲子

「わかりやすい。サスペンスドラマを見ているようだ。」「雪国で育ったものにはよくわかる。」

神在るようで俺無いようで冬の輝線

恵行

「普通に考えると、神が無くて、自分が在るのだが、それが逆になっているのがおもしろい。」「輝線というのは、プリズム等通したときの暗線に対するあの七色の明るい光線だと思いが、日常の何かの拍子にガラスを通して見えた輝線に、幻想的な気持ち誘われて、神の存在感の方が大きくなったのではないか。」

スイッチを求めて暗闇をおよぐ

雅子

「一人暮らしの自分によくわかる。」「単なる描写ではつまらない。」「そのまま読まれては作者はがっかりするのではないか。この「スイッチ」は自分に光を与えてくれるもの、暗中模索の自分をうたっている。」「

ふれて 耳がへんな位置にある

雁

「あたり前のことが変わった感覚で伝わってくることもあるが、いつも同じ位置にあるはずの耳がこんな所に……というおもしろい表現だ。」「

(1点)

わたし 青い空間を泳ぐ

雁

いつも命にあせっている眼双つと指二本

踏青

「ちよつと言い足りない。」「青い空間」はありきたり」

混み入った線路がすぐ一本となつて旅発つ

久魚

「指二本」とはどういう意味か、わかりにくい。」「職業的なものか。」「単にリズムを合わせるためではないだろう。」「分析してしまうとわからなくなるのかも。」「指二本」がわかればもっとわかる句なのだが……」

汚れた髪を洗う真冬の右心室で

踏青

「気持ちの整理をするためにどこかへ旅立つ。前の方に乗っていると、駅近くのポイントをこえて線路は一本になっていく。同時に心もすっきりしていく、そんな過程をうまくうたっている。」「景だけでうまく感情を表している。」「

かさついた言葉こだまするピルの壁

余死行

「右心室」を風呂場と考えると、家全体のつくり、機能からいって、ぴったりの表現。その中で、世間に出て汚れてきたものを洗い落としている。何か、その人の背中が見えてきておもしろい。」「

団地の住人にはよくわかる。共鳴」

ドボルザーク No. 8 に冬のゆめみ 停年近い父 尚子

遠くて病む姉想う母日に小さく座る

千代子

「No. 8 がわからない。」「とった方がよい。」「

「小さく座る」がよい。」「生活感よくでている。」「

河清待つ黄砂の月に連呼連呼

恵行

(0点)

「連呼が合わないような気がする。」「難しい。」「黄河が

宇宙へと開かれた小窓

白雲子

清くなるのを待つ意の河清、そこに黄砂にぼーっとした月が掛かっている。そういう幻想的な雰囲気の中で、何を連呼するのか。様々に想像できる。」「

「小窓」にいろいろな意味を感じる。」「人工衛星と解釈されても困るかな。」「

二進法の人生がショートして不合格通知

博之

子供に触れ成長確認する

余死行

「二進法」が難しい。」「もっと違うやさしい言い方ができるのではないか。」「最近はこのように句は多い。」「

「当たり前すぎる。」「詩ではない。もっと、たとえば子供のどこか具体的なことを見て詠んだ方がよい。」「

山肌に雪を残し村おこしの木造りの電話ボックス 和広

赤ぶどう酒色ため息ついて 君は去る

尚子

「下句、情景がよく出ている。」「最近、景を読む人が少ないからこういう句は貴重。」「もう少し個性を出しては。」「もっと短く言えるのでは。」「

「色の」となるのではないか。」「「ついて」の後のスペースはどんな意味があるのか、わからない。」「

新曲という名の歌を聞く毎日

雅子

「新曲」が何かの曲名なら」「を付けるのではないか。」

じらされた恋心が月のない夜の流れ星

博之

「ロマンチックだが、訴える所がない。」「言葉はそれほどロマンチックではない。」

雨にさみし散るのでもなく梅の花びら

和広

「句意がはつきりしない。」「散るのでもなく」というのがわかりにくくしている。」

利き過ぎるわさびに涙する母まだまだ達者

千代子

「わかりやすいが、平凡。」

坊主頭の受験生お守をそっとポケットに忍ばす

聖治

「坊主頭」は微笑ましい。」「そっと」に気持ちが入っている。」「素直だが、すべて当たり前すぎないか。」

ブラシ片手に熱心に鏡みつめる年頃の女生徒

聖治

「現代の青年をよく観察しているが、この「女生徒」のどこか一点にしばってうたったほうがい。」

かがやく冬の空に蓄意志固く

尚夫

「言い古されている。」「蓄」「意志」「固い」「みな同じような取り合わせだ。」

一日笑わぬ顔こそばゆく我がテスマスクを想う

栄一

「ある面ではいい句。」「自分をストレートに出している。」「放哉的な感覚。」

以上大雑把で、言葉が足りず浅学故の意見も多いと思いますが、そう思われた方はぜひ出席して御指導いただければ幸いです。その他、会の運営・すすめ方・感想等平田までお送りください。

おたより紹介

「日暮里の句会、どうか永続させてください。・・・その中

で意見交換ができ、気づころがわかってくるとよいと思います。はじめは定型でも自由律でも一行詩でも結構、「鳩よ」の永六輔選の「創句」欄みたいなやり方で、気軽に取り組んでほしいものです。先輩方のむずかしい自由律の理論等、やっていて興味が広がった時点で学べばよいのですから。それより、現在の社会の話題や感覚を敏感に受けとめることとおもいますよ。・・・編集室もできるだけ情報を提供したいし、必要あれば小生も出かせましょう。」(完吾)

「層雲青年句会のメンバー揃いましたか。・・・同じ世代・同じ地域の方々の方が集まりやすいでしょうし、気心がわかって楽しいと思いますので、なんとか続けてください。最初から小生が顔を出すと、皆さん萎縮するといけませんから今回は欠席します。もし層雲社から出てもらいたいときはできるだけ都合を付けていきます。自由律ならびに口語自由律系の俳句誌ご参考までに十冊ばかり別送しました。大体似たり寄ったりの内容で最近層雲の人も二、三そうした雑誌にも参加しているようです。しかしどこも若い人が少ないため、いまひとつ積極さが見えませんが、自由律や口語俳句系の現状を知るうえで多少参考になるかと思えます。」(完吾)

・・・今回の句会参加者に分配しました。(栄一)
「青年句会とてもよい名だと思います。歳など関係ありません。新鮮でよい名です。何事もこうゆきたいもの。」(てつ)

のすけ)

「こちらには三好草一によって始められた句誌「きやらばく」という月刊誌があり、・・・編集のお世話をさせていただいております。「層雲」だけではわたしのごとき凡夫はとづくに息切れしてしまっていたかも知れません。この会が継続し、「きやらばく」のようなものが期待しています。」(博之)

「将来の層雲の句会活動へ繋げていくためにも、日常の活動として平田さんにもちこたえていただけると、私も本当に助かります。いずれある程度の人数を確保して参りたいものです。」(尚子)

「従来の句会にはないような方法を探るのも魅力だと思います。各自にあるいは周囲にインパクトを与える会であることを望みます。」(久魚)

「そろそろ中年ですが、永遠の青年として出席させていただきます。」(白雲子)

「勉強会も昔京都でやりましたが、結局皆の熱意が失せて中断した苦い思いがあります。とにかく続けることです。」(踏青)

「意義ある御企画へ飛んで参り勉強したく存じますが・・・当会の成果おおいなることと思えます。」(恵行)
その他、一幸氏より「海市」二十冊等を贈呈いただきました。

句会というものにはじめて出席して (田名網聖治)

「初めての句会出席でしたが、自由な雰囲気で見聞が言え、たいへん有意義でした。今後も青年句会に出席する人が増えることを望みます。句の評を中心に時間をかけてやつてもらいたいです。」

後記

この句会の趣旨は、青年句会のご案内に書きましたが、具体的には、とりあえず次のようなことに重点を置いていきたいと思えます。

- 一、初心者・入門者が自由に発言できること、
- 二、句そのものの鑑賞に重点を置き、
- 三、したがって、出句されたものはすべて、たとえ一言でも句会で出された率直な意見・句評を作者に報告しようと思えます。

新しい方がせっかく層雲に入ってきてても長続きしないことがあるのは、自分の句に対する反応の無さ・孤独感の原因があるのではないでしょうか。ただでさえ自由律は俳壇のなかで取り上げられることが少ないのですから、せめて仲間のなかでは風通しを良くして、励まし合ったり、批評し合ったりしたいものです。自分で好きなようにつくってあげればいじ

やないか、という方もいるかもしれませんが、折角大きな伝統を受け継いで新しいものを創造していこうという意欲に燃えて入門した者にとつては、自分の句に反応してくれる場は少しでも多いにこしたことはないと考えます。そういう意味で、この会の試みが少しでも役に立てば幸いです。中堅以上の方には、菌痒く思われる点も多いと思いますが、ぜひ御指導をいただいて、若い人たちの導き手となつていただきたいと思います。

また、お薦めの作家や句集等ありましたらお知らせください。

次回は四月中旬句を予定しています。